

なごや看護学会 第7回学術集会

プログラム案内

なごや看護学会 第7回学術集会の開催にあたって

なごや看護学会第7回学術集会

学術集会長 松本 千佳子

(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

近年わが国では、地震や水害・山林火災など度重なる自然災害が発生しています。被災され避難生活をされてみえる方、生活再建に取り組まれていらっしゃる多くの方々にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を願ってやみません。

このたび、なごや看護学会第7回学術集会は、「看護DXへの挑戦—看護の本質と新しい看護の創造—」をテーマとし、名古屋市立大学病院にて開催いたします。多くの方に演題登録、参加申込をいただき、心より感謝申し上げます。

2025年、いよいよ団塊世代が75歳を迎える年となりました。その先には、高齢者1人を1.5人の現役世代が支える2040年問題が控えています。働き手の中心となる現役世代の急減と働き方改革の推進・少子化による18歳人口の減少は、医療・看護・介護だけではなく、私たちの健康と暮らしに大きな影響を及ぼすことが予測されています。

現在は、ICTを活用した遠隔診療やAI・ロボット等の技術革新が驚くべきスピードで進化し続けています。このような革新技术により、人でなくても可能なことを代替・補完し、効率性を高めるなど、安全性をより向上していくことが可能な時代になってきました。DXの必要性が問われていますが、技術への理解や活用方法・導入に向けた経費等の問題は山積しています。

今回、看護領域での先進的なDX開発に取り組まれてみえる企業のご協力をいただき、看護保健職がDXを身近に体感できる機会を設けております。私たち看護者一人ひとりが、来るべき将来像をしっかりと見据え、柔軟な発想を持ちながら技術を理解し、新しい看護の創造と看護の発展を考えていきたいと思えます。

その一方で、私たち看護者は、ナイチンゲールに端を発する看護の本質を今一度考え、大切にしていかななくてはなりません。「その人らしい暮らしを支える」「その人らしく人生を全うする」ことへの伴走者として、あらためて看護を考える時、革新する技術だけではなしえない看護の根幹となる本質を感じざるを得ません。本学術集会を通じ、変化する社会における看護の形と価値、そして看護の本質を皆さまとともに考える機会となることを願っております。

なごや看護学会 第 7 回学術集会 概要

会期 2025 年 9 月 6 日(土)

10 時～17 時(受付開始 9 時 30 分)

会場 名古屋市立大学病院

病棟・中央診療棟 3 階大ホール ・ 4 階第 1 会議室

(所在地:名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地)

学術集会会長 松本 千佳子

名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

テーマ 看護 DX への挑戦

—看護の本質と新しい看護の創造—

参加費 会 員:1,000 円

非会員:2,000 円

学 生:無料(大学院生除く)

タイムテーブル

会場	【第 1 会場】 3 階大ホール	【第 2 会場】 4 階第 1 会議室	【展示】 (3 階) 大ホール北側、廊下 (4 階) 第 1 会議室、廊下
9:00	発表者受付開始		
9:30	一般受付開始 示説ポスター掲示 (9:00～9:50)		
10:00	開会		企業展示 ※ブースラリー ゴール受付は 15:00～
10:05	会長講演:松本 千佳子 座長:香月 富士日 10:05～10:20		
10:20	特別講演:三浦 昌子 座長:松本 千佳子 10:20～11:50		
11:50			
12:00	会員総会 12:00～12:30		
12:30			
13:40	口演 1 座長 友廣 智香 13:40～14:30	示説 1 座長 大橋 麗子 13:40～14:30	
14:35	口演 2 座長 秋山 直美 14:35～15:15	示説 2 座長 平 愛 14:35～15:15	
15:20	口演 3 座長 小松 美砂 15:20～16:10	示説 3 座長 永坂 和子 15:20～16:10	
16:15	口演 4 座長 村田 佐知子 16:15～16:55	示説 4 座長 後藤 るり子 16:15～16:55	
17:00	閉会	ポスター撤去	

学術集会プログラム

9:30~一般受付（発表者は 9:00~受付）

【第 1 会場】 病棟・中央診療棟3階 大ホール

10:00~10:05 開会の挨拶 学術集会会長 松本 千佳子

10:05~10:20 会長講演

学術集会会長 松本 千佳子

テーマ デジタル変革時代の未来のケア

座長 香月 富士日(名古屋市立大学大学院 看護学研究科)

10:20~11:50 特別講演

公益社団法人 愛知県看護協会 会長 三浦 昌子 氏

テーマ 変革の中に看護の心

ー看護の価値を再定義し、テクノロジーとともに進化するー

座長 松本 千佳子(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

12:00~12:30 会員総会

12:30~13:40 昼休憩（展示ブースラリー 10:00~17:00）

13:40~14:30 一般演題口演 1(O1) 教育・管理

座長 友廣 智香(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

O1-1 地震災害発生時における手術室看護師の意識変容を促す初動対応能力
向上への取り組み

演者:服部 智絵(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

O1-2 自己文体に類似したメール作成用 ChatGPT プロンプトの開発
演者:中神 克之(名古屋葵大学)

O1-3 手術室内での医療材料管理の意識改革

演者:水野 幸恵(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

O1-4 A 病院における看護提供方式の構築過程で看護師長が発揮した行動特性
演者:後藤 るり子(名古屋市立大学病院)

O1-5 急変対応能力の向上に向けた教育の取り組み報告

演者:鈴木 伴枝(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

- 14:35~15:15 一般演題口演 2 (O2) 協働**
 座長 秋山 直美 (名古屋市立大学)
- O2-1 高度急性期病院における看護補助者と看護師の協働ラウンド**
 演者: 八代 律子 (名古屋市立大学病院)
- O2-2 術中追加麻薬の受取・搬送業務における看護補助者へのタスクシフトとその効果**
 演者: 岡田 悠揮 (名古屋市立大学病院)
- O2-3 誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者に対する多職種連携の実際**
 演者: 二村 太規 (みんなのかかりつけ訪問看護ステーション)
- O2-4 看護学生アルバイトを導入するにあたっての工夫**
 演者: 佐橋 朋代 (名古屋市立大学病院)
- 15:20~16:10 一般演題口演 3 (O3) 健康・看護実践**
 座長 小松 美砂 (相山女学園大学)
- O3-1 ナラティブアプローチを取り入れた看護
 — ナースコールを頻繁に使用する患者の主観的情報に着目して得られた効果 —**
 演者: 鈴木 千世 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)
- O3-2 物忘れと活動、健康状態の関係**
 演者: 河合 真悠 (名古屋市立大学看護学部)
- O3-3 野菜摂取と活力・活動との関係**
 演者: 池田 瑚々 (名古屋市立大学看護学部)
- O3-4 外来化学療法を受けている患者への質問票を活用した不安の抽出と支援介入の取り組み**
 演者: 大西 紀子 (公益社団法人日本海員掖済会 名古屋掖済会病院)
- O3-5 看護師による抗がん剤の血管確保を安全に導入する取り組み**
 演者: 佐橋 朋代 (名古屋市立大学病院)
- 16:15~16:55 一般演題口演 4 (O4) 地域・連携**
 座長 村田 佐知子 (名古屋市立大学病院)
- O4-1 フットケア外来開設と活動報告**
 演者: 道田 愛美 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)
- O4-2 『仕事をしたい』を支える — 病院と訪問看護の連携 —**
 演者: 浅野 生帆 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)
- O4-3 医科歯科連携の推進に向けた取り組み
 — つながる医療で口から健康を目指して —**
 演者: 山崎 美代 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)
- O4-4 訪問看護師の嚥下訓練に関する実態調査**
 演者: 竹内 久子 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

〔第 2 会場 (ポスター会場)〕病棟・中央診療棟 4 階 第 1 会議室

13:40~14:30 一般演題示説 1 (P1) 看護実践

座長 大橋 麗子 (名古屋市立大学)

P1-1 CNS-FACE IIを用いた ICU に緊急入室した患者の家族への関わり

演者: 西山 琴奏 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

P1-2 集中治療部での ACP 導入に向けた取り組み

演者: 伊藤 美聡 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

P1-3 NICU における MRSA 感染予防のための取り組みについて

演者: 中村 祐太 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

P1-4 転倒転落予防に向けた看護

ー病棟での取り組みから得られた効果ー

演者: 伊藤 智子 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

P1-5 地域に尽くす救急外来の取り組み

演者: 岡田 千華 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

14:35~15:15 一般演題示説 2 (P2) 協働

座長 平 愛 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

P2-1 がん薬物療法をうける高齢者へのサポート

ー高齢者機能評価に基づく多職種介入ー

演者: 社本 奈美 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

P2-2 認知症患者の「食べる」を支えるアプローチ

ー多職種連携で食の喜びを取り戻すー

演者: 池田 真弓 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

P2-3 訪問看護師と共創する実践型研修

ー病棟看護師の退院支援力向上への取り組みー

演者: 吉田 あかり (みんなのかかりつけ訪問看護ステーション)

P2-4 認知症高齢者に対して、リハビリと共同でアクティビティを活用し BPSD が軽減した事例

演者: 蟹江 梓 (名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院)

15:20~16:10 一般演題示説 3 (P3) 教育

座長 永坂 和子 (岐阜保健大学)

P3-1 採血に関するインシデントを防ぐための現状分析

演者: 外山 紗羅 (名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

P3-2 市民を対象とした BLS 講習

－救命ハンカチによる効果－

演者:松本 彩花(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

P3-3 感染対策における高齢者施設との連携

－ラウンドで明らかになった現場の実情－

演者:福田 範子(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

P3-4 個々の強みを生かすための教育活動

－成人学習理論(アンドラゴジー)の視点より－

演者:牧野 綾(名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院)

P3-5 新人看護師と共に育つ環境醸成

演者:成瀬 由実(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

16:15~16:55 一般演題示説 4 (P4) 業務改善

座長 後藤 るり子(名古屋市立大学病院)

P4-1 動画視聴による患者指導導入の取り組み

－手術オリエンテーション, 術前術後リハビリテーションへの活用－

演者:石井 房世(名古屋市立大学病院)

P4-2 成人一般病棟における機能別深夜勤 4 人体制導入の取り組み

演者:梅村 加奈子(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

P4-3 入院時支援加算 I 取得に向けた記載方法の検討とシステム再構築

演者:北野 ゆかり(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

P4-4 チームコンパス導入の効果

－業務改善に向けた取り組み－

演者:久保 ゆかり(名古屋市立大医学部附属西部医療センター)

【会長講演】

デジタル変革時代の未来のケア

松本 千佳子

名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

古代ギリシアのヒポクラテスの時代から、医学・医療は日進月歩で進化を遂げてきた。新たに開発される医療技術や医療機器、研究による未知の解明など、医療現場とエビデンスは常に更新され続けている。紙カルテに診療記録を残し、ポケットベルで医師に連絡を取っていた時代は、もはや遙か昔の出来事に感じられる。

2025年には、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者となり、わが国は少子高齢化に伴う社会構造の変化や労働力人口の減少、さらには地域格差の拡大という重大な課題に直面している。これを受けて厚生労働省は、介護職員不足への対応策として、介護ロボットの開発・実証・普及に向けたプラットフォームを構築し、介護分野へのロボット導入を積極的に推進してきた。社会環境の急速な変化に対応するには、データやデジタル技術を活用し、現場のニーズに基づいて業務や組織、プロセスそのものを変革する「デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）」への期待が高まっている。

一方で、看護分野におけるDXの進展はどうであろう。紙カルテは電子カルテへ、PHSはスマートフォンへと移行しつつあるものの、介護・医療・福祉の現場でDXが進行する中、看護分野のDXは他領域に比べて遅れを取っているのが現状だ。日々の業務に追われる中で柔軟な発想をもってDXに取り組む看護専門職が不足していることや、導入コストの高さ、デジタル技術に対する理解の不足といった課題が山積している。看護DXへの挑戦は、まさに今始まったばかりである。

今こそ私たちは、一人ひとりが現場の課題や疑問に目を向け、10年後、20年後の看護ケアや看護教育のあり方を主体的に考え、変革の主演となることが求められている。看護DXを推進するには、看護の本質を大切にしながら、デジタルリテラシーと倫理観の教育を強化し、テクノロジーと人間中心のケアの融合を目指す必要がある。そのためには、技術と感性を併せ持つ「デジタル・ナース」の育成も視野に入れるべきであろう。

いま、チーム医療は多職種連携に加え、DXとの協働が求められる新たな時代を迎えている。あらためて、看護の本質とは何か、そして看護職の働き方がどのように変化すべきかを見つめ直し、未来のケアについて考えていきましょう。

<プロフィール>

1989年 愛知県立看護短期大学卒業

1989年 名古屋市立大学病院入職

2008年 名古屋市立大学病院 看護師長

2015年 名古屋市立大学病院 医事課主査

2019年 名古屋市立大学病院 副看護部長

2022年 名古屋市立大学病院

緑市民病院大学病院化に係る調整主幹・認定看護管理者

2023年 名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 副病院長・看護部長



【特別講演】

変革の中に看護の心

—看護の価値を再定義し、テクノロジーとともに進化する—

公益社団法人 愛知県看護協会
会長 三浦 昌子

昨今、高齢化、少子化、人材不足、さらに新型コロナなどの影響によって人工知能(AI) やロボット工学などの技術が飛躍的に進歩を遂げ、実際に医療や看護・介護の世界でも、テクノロジーの進歩は目覚ましいものがあります。コロナ禍においては、感染防止目的で遠隔で映像を送信して診断や観察をおこなうといった遠隔医療や看護・介護が行われるようになりました。

また看護における DX (デジタルトランスフォーメーション) も、看護の質と効率を向上させるための有効な手段であり、電子カルテや患者情報管理システムの活用、看護記録の自動化、AI による診断補助ツールなどを導入することで、現場の生産性を向上させることが期待されています。

そして、患者ケアに集中できる環境を整えることで、より本質的な看護を実践できるよう支援できると言われています。これまで人間が行ってきた多くの仕事をコンピューターやロボットが代わりに行うということも現実のものになっています。技術の進歩は、人間にとって非常に便利である反面、やはり人間でしかできないことがあります。それは、対象に寄り添う看護です。この看護の価値を考える上で、近代看護の母と言われるフローレンス・ナイチンゲールが、1859 年に『看護覚え書』という書物を書き、その中で看護のあり方や考え方を説きました。そして人類史上初めて、この本の中で「看護とは何か」という定義を明らかにしたのです。その定義とは、「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさなどを適切に整え、これらを活かして用いること、また食事内容を適切に選択し与えること、こういったことのすべてを、患者の生命力の消耗を最小にするように整えることである。」と定義されています。

日本の看護の原点はというと、ナイチンゲールよりずっと昔、聖武天皇の皇后である光明皇后 (701~760 年) の功績に遡ります。この光明皇后が「看護」とは“誰にでも平等に慈愛の心をもって接すること”であることを日本で初めて提唱し実践的な行動で、看護の分野に多大な貢献をしたと言われています。

つまりナイチンゲールが述べているように、看護は「生きた身体と生きた心に働きかけ、心身一体の感情に働きかけるものである」と言っており、この二人の看護の本質は共通しています。

今後、看護において、AI や ICT が盛り込まれ活躍場面が増える中で、看護の原点に立ち返って看護師が患者を Comfort にするという行為の中にテクノロジーを活かし、お互いに共存していく道を探ることが必要だと思います。そして、より質の高い看護を実践し、患者はより良い医療を受けることができるようになるために、改めて看護の価値を再定義しテクノロジーとともに進化することについて考えてみたいと思います。

経歴

<プロフィール>

- 2006 年 名古屋大学医学部附属病院看護部長兼副病院長
- 2010 年 愛知県立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻 (修士課程) 修了
- 2015 年 名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター看護キャリア支援室教授



会場（名古屋市立大学病院）へのアクセス

アクセスマップ



名古屋市立大学病院

〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地

TEL:052-851-5511

交通アクセス

【地下鉄】

地下鉄 桜通線「桜山駅」3 番出口すぐ

(例) 名古屋駅からご来院の場合

地下鉄 桜通線「今池・新瑞橋・徳重方面行き」に乗車(約 16 分)「桜山駅」下車

【市バス】

市バス「市立大学病院」「桜山」すぐ

(例) 栄バスターミナル(オアシス 21 のりば)からご来院の場合

【4 番のりば】

栄 26 号系統「博物館」行に乗車(約 25 分)「市立大学病院」下車

(例) 金山市営バスターミナルからご来院の場合

【7 番のりば】

金山 11 号系統「池下」行に乗車(約 15 分)「桜山」下車

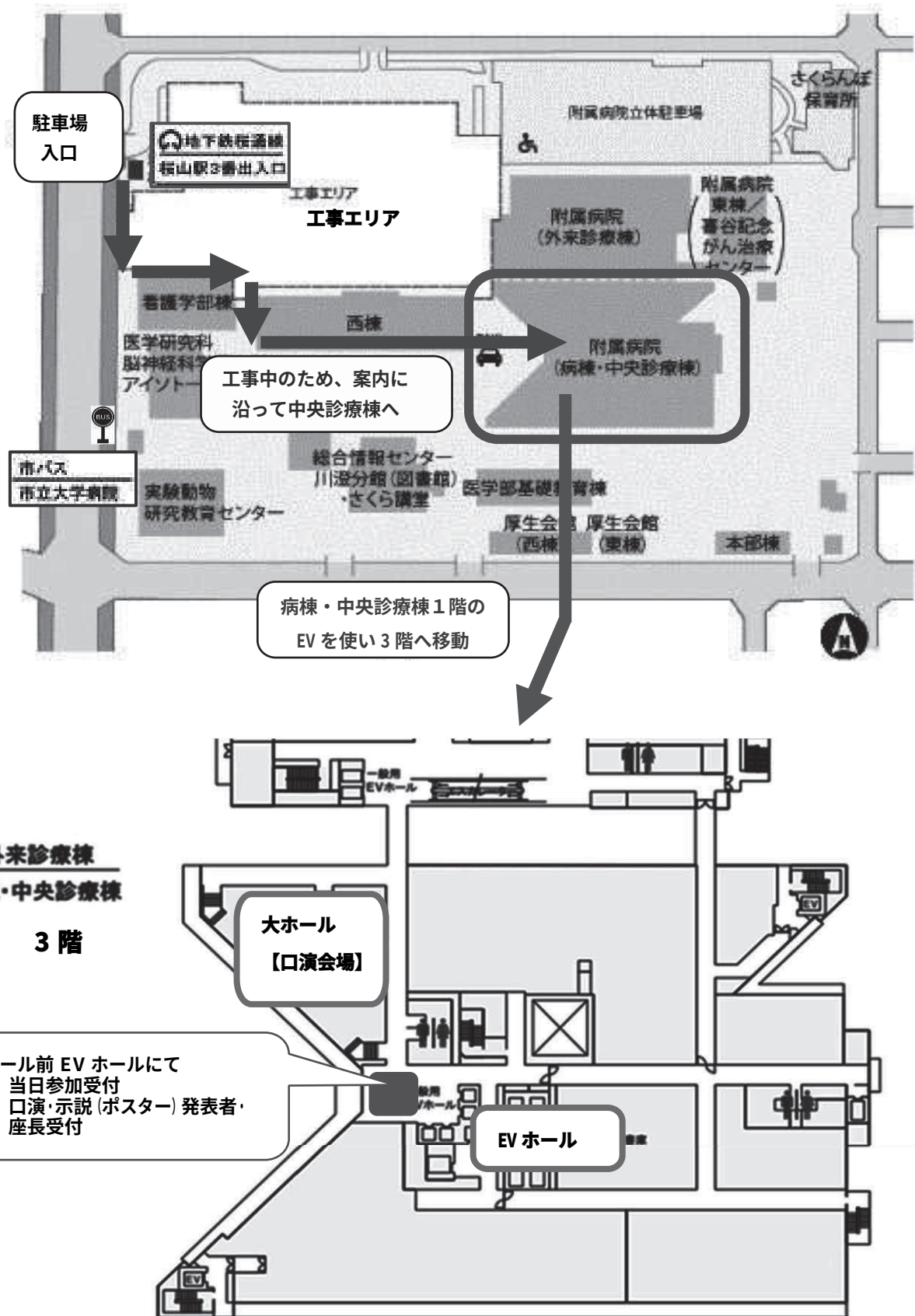
金山 16 号系統「瑞穂運動場東」行に乗車(約 15 分)「桜山」下車

金山 12 号系統「妙見町」or「金山」行に乗車(約 15 分)「市立大学病院」下車

【8 番のりば】

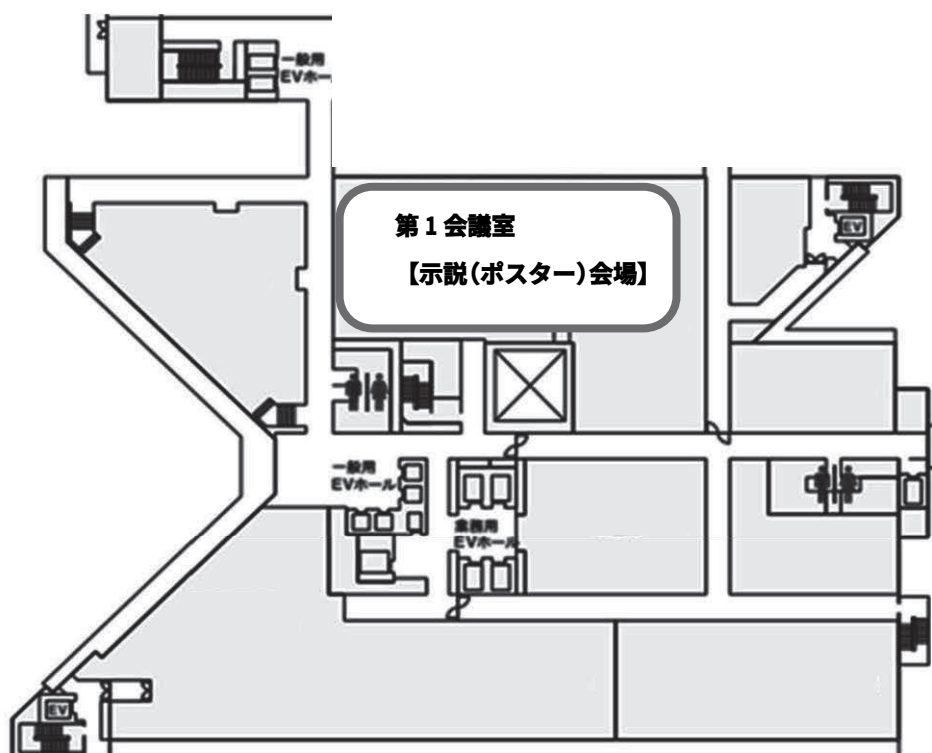
金山 14 号系統「瑞穂運動場東」行に乗車(約 15 分)「市立大学病院」下車

会場配置図（病棟・中央診療棟 3 階大ホール）



外来診療棟
病棟・中央診療棟

4 階



学術集会に参加される方へ

参加者の皆様へ

1. 参加証をお持ちの方は、受付不要です。事前にお送りした学術集会プログラム・抄録集と参加証をお持ちください。
2. 受付は、名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール前 EV ホールにて、9:30 から行います。参加証をお持ちでない方は、必ず受付をしてください。
3. 当日参加・参加費の振込がまだの方は、受付で参加費をお支払いください。
参加費 会 員:1,000 円
非会員:2,000 円
学 生:無料(大学院生は除く)
4. 会場までは公共交通機関をご利用ください。
5. なごや看護学会総会を 12 時から病棟・中央診療棟 3 階大ホールで開催します。会員の方はご参加ください。
6. 当学術集会では写真撮影等の一律の禁止は行いません。撮影した写真等を不特定多数に発信したい場合は、発表者等の許可を得てください。
7. なごや看護学会では、学術集会の記録・広報を目的とした写真撮影を会場で行います。撮影内容は学会 HP や報告資料等で使用する可能性があります。写り込みを希望されない方は、会場カメラマンへその旨をお伝えください。ご理解とご協力をお願いいたします。
8. 荒天時の開催情報は、なごや看護学会第 7 回学術集会 HP でご確認ください。

座長・発表者の皆様へ

1. 座長の皆様へ

- (1) 名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール前 EV ホールで座長の受付を行います。演題発表時間の 20 分前までに受付をお済ませください。
- (2) 受付で水色のリボンをお渡しします。服または名札ホルダーにお付けください。リボンは、ご返却をお願いします。
- (3) 演題の発表時間は口演 1 題 10 分 (発表 7 分、質疑 3 分)、示説 1 題 10 分 (発表 7 分、質疑 3 分) です。口演の会場では、残り 1 分前にお知らせします。時間内での進行にご協力ください。
- (4) 質疑では、質問者に所属・氏名を述べてから発言するようご指示ください。

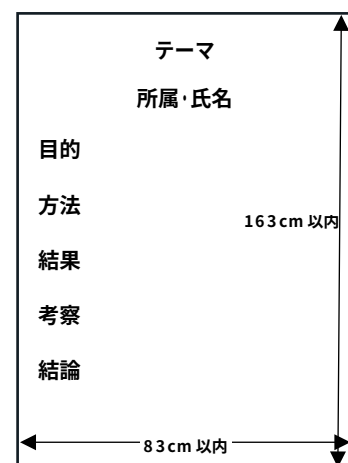
2. 口演発表者の皆様へ

- (1) 発表データ (PowerPoint ファイル) を 8 月 26 日 (火) から 9 月 3 日 (水) までに、学術集会事務局にメール添付でお送りください。念のため、学術集会当日も発表データを USB メモリ (ウイルスチェック済みのもの) に保存してご持参ください。
 - ・ 発表用のパソコンは Windows (OS Windows 11)、ソフトは Microsoft PowerPoint2019 です。

- ・ 動作確認を希望される場合は、9月6日(土) 9:00～9:45、12:30～13:30 に発表会場で行ってください。
 - ・ 発表時の PC 操作は、発表者ご自身で行ってください。
 - ・ 不明な点は発表会場の担当者に声をかけてください。
- (2) 名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール前 EV ホールで一般参加者より優先して 9:00 から発表者の受付を行います。発表の 1 時間前までに受付をお済ませください。
 - (3) 受付で黄色のリボンをお渡ししますので、服または名札ホルダーにお付けください。発表後、リボンはご返却ください。
 - (4) 演題発表時間の 20 分前までに、病棟・中央診療棟 3 階大ホール前方の発表者席にお越しください。
 - (5) 次演者席を各発表会場の前部に設けます。前演者の発表が始まりましたら、次演者席へ移動してください。
 - (6) 進行は座長の指示に従ってください。発表時間は 1 題 10 分 (発表 7 分、質疑 3 分) です。発表終了 1 分前にお知らせいたします。時間厳守をお願いします。
 - (7) 自分の発表について、写真撮影等を禁止したい場合には、その旨を発表の冒頭で聴衆に明示してください。特定のスライドのみを撮影禁止とすることもできます。

3. 示説発表者の皆様へ

- (1) 発表ポスターは、下記の図を参考に縦 163cm×横 83cm の範囲で作成してください。演題番号は学術集会運営委員が準備します。
- (2) 名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール前 EV ホールで一般参加者より優先して 9:00 から発表者の受付を行います。発表の 1 時間前までに受付をお済ませください。
- (3) 受付で黄色のリボンをお渡ししますので、服または名札ホルダーにお付けください。発表後、リボンはご返却ください。
- (4) ポスターは、下記の時間内に発表者ご自身で掲示および撤去をお願いいたします。
 掲示 9月6日(土) 9:00～ 9:50
 撤去 9月6日(土) 16:55～17:10
 17:10 を過ぎても掲示されているポスターは、学術集会運営委員にて撤去及び破棄いたします。
- (5) 演題発表時間の 20 分前までに、ご自身のポスター近くで待機してください。
- (6) 進行は座長の指示に従ってください。発表時間は 1 題 10 分 (発表 7 分、質疑 3 分) です。時間厳守をお願いします。
- (7) 自分の発表について、写真撮影等を禁止したい場合には、その旨を発表の冒頭で聴衆に明示してください。特定のスライドのみを撮影禁止とすることもできます。



ポスターの作成例



なごや看護学会